

‘紅まどんな’の摘果剤利用による摘果作業の効率化

摘果剤(ターム水溶剤)利用で、生理落果が促進され、摘果作業時間の短縮と収穫時の果実肥大が優れる傾向がある。使用の際は、天候や気温を見極め最高気温25℃～28℃が続く日に散布する必要がある。

試験区

供試樹：紅まどんな(10年生・雨よけハウス)
供試剤：ターム水溶剤
散布日：5/31(満開18日後)
散布濃度：1,000倍
散布方法：上部(主枝先端)散布
下部(内・裾枝)散布
調査部位：上部側枝および下部側枝
摘果日：6/30(あら摘果)
7/11(見直し摘果)

使用上の注意

高温下(30℃以上)で散布、あるいは、散布後2～3日高温が続くと過摘果になる恐れがある。

総使用回数：3回まで
摘果目的の使用回数：1回
(温州みかんを除くかんきつ)

最高気温25℃～28℃が続く日に散布が必要がある。

落果率

調査日：6月30日



ターム水溶剤散布(特に上部散布)により、無処理に比べて落果率が高まる。

摘果時間

試験区	1樹あたりの摘果時間(分)	指数
上部散布	25.9	81
下部散布	24.7	78
無処理	31.8	100

注)摘果時間：あら摘果・見直し摘果の合計
指数：無処理区を100とした相対値

ターム水溶剤の散布は約20%の摘果時間短縮効果がある。

階級割合

試験区	階級割合(%)	
	2L以上	L以下
上部散布	82	18
下部散布	86	14
無処理	79	21

注)調査日：12月6日

ターム水溶剤の散布により、無処理に比べて大玉果の生産割合が高まる。

糖度・酸度

試験区	糖度(Brix)	クエン酸(g/100ml)
上部散布	10.6	0.89
下部散布	10.9	0.89
無処理	10.8	0.92

注)調査日：12月6日

ターム水溶剤の散布による糖度、クエン酸含有量への影響は見られない。